

住民自治や住民活動の支援による地域づくり

札幌市 JR 白石駅周辺地区街づくり協議会と NPO 法人白石ネット

JR 白石駅は駅北側の駅前広場は未整備で、改札口も無く、狭い人道橋を渡って駅を利用するなど、アクセスの悪さがありました。また駅南側でも、バス乗降場の不足が指摘されていました。このような状況を改善するため、札幌市と地域の町内会や商店街などで構成された「JR 白石駅周辺地区街づくり協議会」との共催のまちづくりワークショップ（平成 15 年まで 12 回開催）を支援し、「JR 白石駅周辺地区市街地総合再生基本計画」の策定や、その後の駅周辺整備に関するワークショップ、都市計画決定につなげました。協議会のデザイン会議では、自由通路や駅前広場の整備に住民がどのような関わりを持つことができるか、また完成後も住民が関わり続ける仕組みをどのようにつくるかが議論され、実働部隊としての NPO 法人白石ネットが立ち上がりました。白石ネットでは、駅周辺の小学校の子ども達が参加し駅前広場のレリーフを制作する「つむつむレンガプロジェクト」や、5,000 人の市民が参加し名前の入ったレンガを広場に敷きつめる「思い出レンガプロジェクト」、総延長 100m に及ぶ宿根草の花壇を住民がお世話する「宿根草ガーデンプロジェクト」を通して、その思いを形にしていきました。現在も白石ネットが中心となって、地域の方々により駅前広場の宿根草ガーデンの手入れが継続されています。



左／「宿根草ガーデンプロジェクト」の様子
右上／「つむつむレンガプロジェクト」の様子・右下／「思い出レンガプロジェクト」の様子

むつ市ご近所知恵出し会議

むつ市市民協働まちづくり会議条例に基づき、協働のまちづくりを推進するにあたって、市内の町内会などの地域団体に声かけし、地域で抱える問題を地域ぐるみで考える場として「むつ市ご近所知恵出し会議」の開催する取組を支援しました。

地域の絆再生、地域防災、地域資源の活用など地域の抱える課題毎にワークショップのプログラムを企画し、グループファシリテータは市職員及び公募のむつ市市民協働まちづくり会議の委員を対象に、ファシリテーション研修とワークショップの進め方の事前演習を行い、実施しました。

それぞれに地域主体の話し合いをつうじて、地域内で課題が共有され、そこから課題解決の取組も生まれました。



「むつ市ご近所知恵出し会議」の様子

川崎市各区まちづくり推進組織

川崎市では7つの区ごとに区民がボランティアで参加し、地域の課題解決や、地域課題に取り組む市民活動団体へのサポートを行う「まちづくり推進組織」があり、これまで5つのまちづくり推進組織の運営支援を行いました。

参加区民への研修や、広報紙・ホームページなどの広報活動、市民活動団体と地域とつなげる場やスキルアップが行える講座やワークショップの機会、交流会など、区の特性に応じ様々な企画を提案しサポートを行っています。



上／「まちカツ！」の様子・下／「多摩★まちカフェ」の様子

川崎市地域福祉活動

川崎市の各区の地域福祉活動に取り組む団体が交流したり、学びあう機会をつくることで、地域のつながりを広げていくことを目的に、交流会、映画会、ワークショップの企画運営に関わっています。

中原区では、「地域のお休み処」の立ち上げに向けて、地域に関わる団体や、地域福祉活動に関心のある区民と事例見学やワークショップを通して、場づくりと運営についての検討を行いました。

宮前区では、様々な障がいのある人が一同に介して、課題を共有しあうワークショップを、多摩区では、地域福祉活動をしている団体の課題を参加者と共に解決するワークショップを行いました。

川崎区では「地域の縁側」という多世代に開かれた活動をしている団体の活動を区民が体験する交流会を、高津区では地域福祉活動を取材して紹介するホームページづくりなど、地域ごとに様々な手法でのサポートを実施しています。



「川崎区地域福祉地域の縁側ちょこっとフェスティバル」の様子

世田谷区地域の絆推進事業「地域交流会」

近年希薄になってきている地域の「人と人」とのつながり《絆》を再生し、地域の課題を地域住民自身が解決するためには町内会・自治会を中心としたさまざまな団体が連携し、地域の力を高めていくことが必要です。

世田谷区では、町内会・自治会の活動と連携し地域課題を解決するとともに、新たなつながり（絆）を生み出す活動に補助金を支援する制度があります。これらの助成団体が、お互いの活動を知り、協力していくためのきっかけづくりとして「地域交流会」を区内3地域で企画・運営しています。

地域の課題にあわせ、テーマ型・地区型グループワーク、ワールドカフェ、先進事例を学ぶ講演会、活動紹介ツアー（ポスターセッション）などの多様な交流の形式をデザインし、効果的な交流の場をコーディネートしています。



上／ワークショップの様子（世田谷地域）・下／ワールドカフェの様子（北沢地域）

子どものまちづくり参加

札幌市手稲区「子どものまちづくり参加促進事業」

区の既存の事業である「小学生の夢・10年後の手稲のまち事業（小学校4年生の子ども達が10年後のまちの絵を描き、10年後の成人式で返還する）」を発展させ、子ども達の地域への興味や関心をより高めるために、楽しい体験をしながら地域の歴史や自然を巡る「手稲タンケンツアー」と「子ども意見交換会」を企画・運営しました。

その際に、幅広い立場・視点からの意見を企画段階から取り入れ、地域ぐるみの取組として継続させるために、区内で子どもに関わる活動をしている方々に企画委員として協力いただきました。

平成20年より4年間企画運営業務を行った後も、毎年内容と企画委員を入れ替えながら、10年間続けることを目標に、区と協力団体により継続されています。



「手稲タンケンツアー」の様子

さっぽろ子どもの権利の日事業「子どもまちづくりコンテスト」

札幌市では、「子どもの権利条例」を制定後、子どもの権利について広く市民への啓発を行なうフォーラムや講演会を行っていました。

平成25年より「子どもまちづくりコンテスト」を開催する際に、子どものまちづくり参加促進につながるような内容を企画・提案しました。コンテストでは、日頃の活動や新たな提案を発表し合い、交流する機会をつくること、子どもたちの思いや提案を前向きに評価し、一歩前進するための取り組みの支援をすることを目的に、提案発表会と意見交換・交流会を行いました。

また、提案づくりをつうじて自らが参画していく気持ちを育てるために、事前の提案づくりの際にもきめ細かい支援を行いました。参加団体は、コンテスト後に提案を実現したり、実施に向けた取組を継続しています。



「子どもまちづくりコンテスト」の様子